

中学校社会科における知識・技能の活用を 図ることをねらいとした問題の作成

【総括研究担当者】高屋敷一博 安部 広一

【社会科研究担当者】吉田竜二郎 鈴木 尚

【この研究に対する問い合わせ先】

Tel 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

1 基礎・基本の定着について

本県の義務教育では、「すべての児童生徒一人一人に基礎・基本の定着を実現していく」ことを目標にしています。

本県においては、「基礎・基本」を、読み・書き・計算といった学習基盤の育成及び各教科等における基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、その知識や技能を活用して人間として社会人として生涯学ぶことができ、自らの人生を切り開いていくために必要な能力(思考力, 判断力, 表現力等)をとらえています。

(「平成 22 年度学校教育指導指針」より)

2 「活用問題」とは

「活用問題」とは、学習指導要領を基に、知識・技能を活用して、思考力, 判断力, 表現力等を育むことを目的とした問題です。

そのために、「活用問題」は、必要な情報を取り出したり、根拠を持って考えたり、自分の考えを説明したりするなどの言語活動に取り組めるよう構成しています。

3 「活用問題」を作成する意義

生徒は、授業や家庭学習などで「活用問題」に繰り返し取り組むことにより、知識・技能を活用することに習熟していきます。

また、教師は、生徒の解答状況から、授業実践を振り返ることにより、授業改善につなげることができます。

このように、「活用問題」への取組を通して、生徒への基礎・基本の定着を支援することができ、「活用問題」を作成することは意義があると考えます。

4 中学校社会科における「活用問題」

中学校社会科においては、『「活用」に関する指導資料』(2008 岩手県教育委員会)に基づき、以下のような学習活動を「活用」に関する学習活動ととらえています。

1 「読み取り」

問題解決に必要な資料を収集・選択するとともに、資料から必要な情報や事実を読み取る。

2 「再構成・解釈」

読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成し、社会的事象の意味、意義を解釈する。

3 「表現・説明」

事象の特色や事象間の関連を考え、それらを自分の言葉で表現する。

4 「話し合い・論述」

考えたことを伝え合い、話し合いを通して互いの考えを発展させる。

中学校社会科の「活用問題」は、身近な場面を設定し、社会科における「活用」を行って解くものです。生徒は、問題に取り組むことを通して、上記の学習活動を行い、「活用」することに習熟していきます。

問題は、単純に知識を問うのではなく、与えられた資料を読み取り解答する、あるいは既習の知識を活用して資料を読み解き、自分の考えを論述するなどの活動が行われるように作題しています。

また、正答例と解説は、生徒が自己採点を行い、生徒自身で正答にたどり着くことができるように作成しており、さらに、教師による事後指導により、学習内容が定着するものと考えています。

[問題]

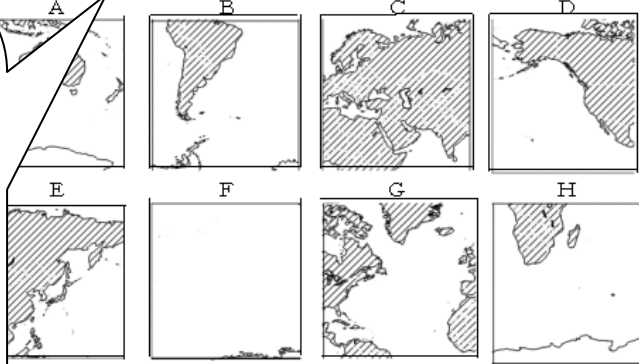
【单元ごとの出題】

单元名は、学習指導要領に準じたものを使用しています。

中学校地理的分野】1 世界の地域構成 目標時間：10分

年 組 番 氏 名

1 次のA～Hの図は、授業で先生が配った世界地図のカードです。カードと先生のコメントを見て、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。



先生のコメント
 ・地図は経線、緯線に沿って切り離しました。
 ・横は北緯 75 度、南緯 75 度、赤道で切り、75 度より高緯度の地図は配っていません。
 ・縦は経度の幅が同じになるように切りました。

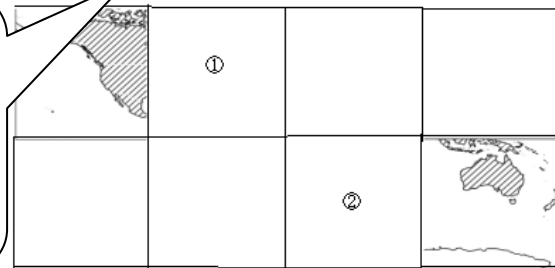
【活用場面:読み取り】

文章・グラフ・絵・図表などの資料を読み取る活動が必要になるように設定しています。この問題でも、図だけでなく、先生のコメントも合わせて読み取る活動が必要になっています。

千太さんは先生からA～Hのカードを正しくつなぎ合わせるよう指示されました。次の図は、その作業の途中のようすを示したものです。図中の①と②の場所にあてはまるカードを、すでに使用したカードAとDをのぞいた、残り6枚のうちからそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。

【活用場面:再構成】

よく使用する1枚の世界地図から視点をかえて、地図をばらばらにして、再構成することが必要です。



解答欄 ①: ②:

(2) 1枚のカードは、経度の幅が何度になっていますか。正しいものを次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 45度 イ 90度 ウ 135度 エ 180度

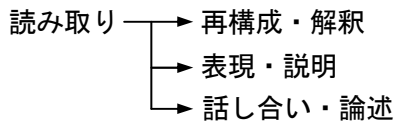
【問題形式】

取り組みやすさや難易度から、選択問題や単答式等の問題も設定しています。

解答欄

千太さんは、カードを正しくつなぎ合わせて1枚の地図を完成させました。さらにその地図の丸めて左右をつなぎ合わせ、円筒状にしました。円筒状にした地図と、地球儀との共通点と、異なる点をそれぞれ一つずつ書きなさい。

解答欄	共通点	
	異なる点	



問題文や設問から必要な情報を読み取り、問題によって生徒は「再構成・解釈」・「表現・説明」・「話し合い・論述」といった学習活動を、解答を通して行います。

【問題例：読み取り（問題文）】

ア A～Hの地図はどの地域を表しているのかを読み取る。

【問題例：再構成[問題1(1)]】

イ 先生のコメントから、地図を切った条件を読み取る。

【問題例：解 釈[問題1(2)]】

ア・イから地図をつなぎ合わせる条件を抜き出し、再構成する。

【問題例：表現・説明[問題1(3)]】

ア・イから計算により解答を導き、選択肢から選び出す。

実際の作業をイメージした上で、平面である地図と立体である地球儀とを比較して文章化する。

[正答例と解説]

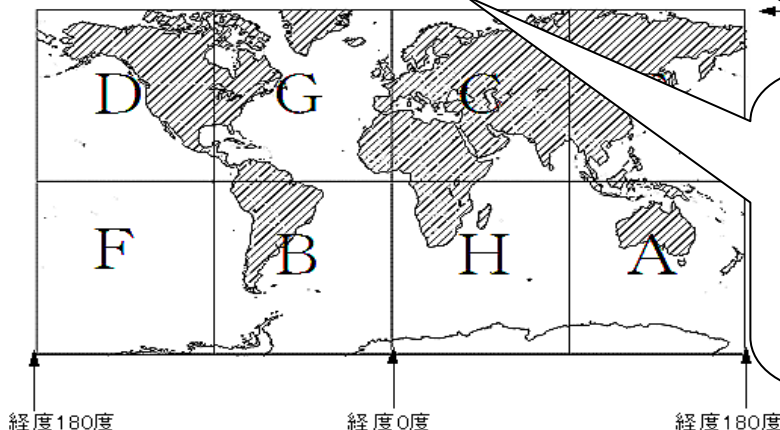
【中学校地理的分野】 1 世界の地域構成 正答例

正答

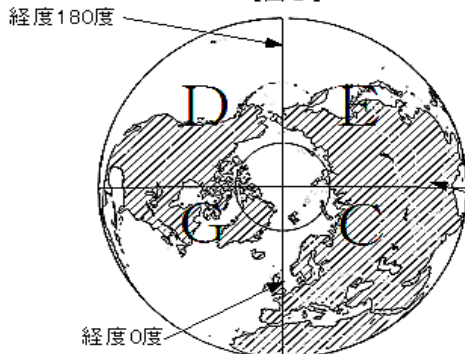
- (1) ①:G ②:H (2)イ
 (3) 共通点 ・赤道一周の距離 ・赤道付近の陸地の形と面積 など
 異なる点 ・高緯度地方の陸地の形と面積 ・円筒状の地図は種
 い など

解説

次の【図1】は、A～Hの地図を、経度0度を中心に正しく並べた
 【図1】



また、次の【図2】は、北極点（北緯 90 度）を中心にして見た北半球の様子を描いた
 ものです。 【図2】



- (1) 【図1】から、①にはGが、②にはHがあてはまることを確認してください。(Dの東側がGで、Aの西側がHになります。東側・西側という表し方も確認しておきましょう。) 普段から、さまざまな図法で描かれた地図を見たり、地球儀を使って世界全体を立体的に見たりして、いろいろな視点で世界をイメージできるようになることが大切です。

【正答と正答例】

問題により、正答を求める場合と、正答例を示し必要な条件を満たしていれば正答とするものがあります。記述問題では、生徒の記述を生かすように配慮しています。

【解説の構成】

解説は、考え方の筋道をたどるように説明しています。生徒が家庭学習など、自分だけで解く時にも、読みやすいよう、また、理解しやすいように工夫しています。

【発展的な学習】

問題の解説だけにとどまらず、発展的に学習するために、これから、どのようなことを学習すればよいのか、といった視点を示しています。

【事後指導の例】

例) 問題1 (3)

- ① 1枚の平面の地図には、球体である地球の陸地の形・距離・面積・角度などを、一度にすべてを正しく表せないことを確認し、解答する際の着眼点を明らかにします。
- ② 地図帳などの世界地図を実際に円筒状に丸めて地球儀と比較し、次のことを確認してみます。
 共通点 ・赤道一周の距離が同じであること ・赤道付近の陸地の形や面積が同じであること
 異なる点 ・緯度が高くなるほど陸地の形はゆがみ、面積が拡大して表されていること
 ・円筒状の北極点付近や南極点付近は描かれていないこと

地図は描き方によって正しいもの（陸地の形・距離など）が異なるため、地球儀と共通する部分と異なる部分が出てしまうことを確認し、地球儀と地図とを目的によって使い分けることも指導します。

6 「活用問題」の使用に当たって

出題内容の一覧表を、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれで、学習指導要領に合わせた形で作成しました。また、一覧表には、「活用のとらえ」の4観点別の項目もあり、教師が、この一覧表を見て、場面と目的に応じて、問題を使用しやすいように工夫しています。

「活用問題」は、以下のような使用場面を想定しています。その他にも、教師の創意工夫によって、有効に活用することが期待できます。

＜単元の最後に＞

問題が単元ごとの構成になっているため、単元の終了時に、学習した知識・技能を活用して「読み取り」や「説明」等を行う練習として活用することができます。

＜授業のおわりに＞

授業時間で学習した内容と類似した「活用問題」を実施することで、知識・技能を活用する学習への習熟を図ることができます。

活用する機会を増やすことで、生徒は知識・技能を活用することに慣れていきます。

＜朝学習や家庭学習の課題に＞

生徒が自学を通して「活用」の学習活動への習熟を図ることができます。正答例と解説は、生徒向けに作成してあるので、自分で正答への道筋をたどることができます。さらに、先生の事後指導により、習熟の度合いはさらに高まることが期待できます。

＜週末課題や長期休業中の課題に＞

週末に家庭で行う週末課題として、知識・技能を活用する学習の練習ができます。木曜日や金曜日に課題を出し、月曜日や火曜日等に提出を求めることで、生徒は自分で時間を見つけて課題に取り組むことができます。

また、長期休業中の課題として、まとめて出すことは、繰り返して類似問題に取り組むことになり、生徒は問題を解きながら、知識・技能を活用することに習熟していきます。

自分で正答にたどり着く経験の積み重ねにより、生徒は知識・技能を活用する手順についても同時に学習することになります。

「活用問題」は、生徒が自分で進めることができるように作成していますが、教師が単元の学習内容の定着状況や「活用」することの習熟度を把握するために使用することもできます。

それによって、授業改善に役立てることができます。

《「活用問題」利用のイメージ図》

授業以外

朝学習・家庭学習・週末課題・長期休業中の課題として

授
業
場
面

単
元

単
元

単
元

単
元

授
業
後
利
用

に
利
用

単
元
終
了
後

授
業
後
利
用

に
利
用

単
元
終
了
後

に
利
用

単
元
終
了
後

授
業
後
利
用

研究内容の詳細については、当センターWeb ページ（岩手県立総合教育センターWeb ページ <http://www1.iwate-ed.jp/>）に資料を掲載しておりますのでご覧ください。

作成した「活用問題」については、岩手教育情報交流ネットに掲載する予定です。また、活用問題 CD-ROM を作成し、各市町村教育委員会経由で各小・中学校に配布いたしますので、ご活用ください。